

第三回「知の拠点」整備構想検討委員会資料

前回の議論について

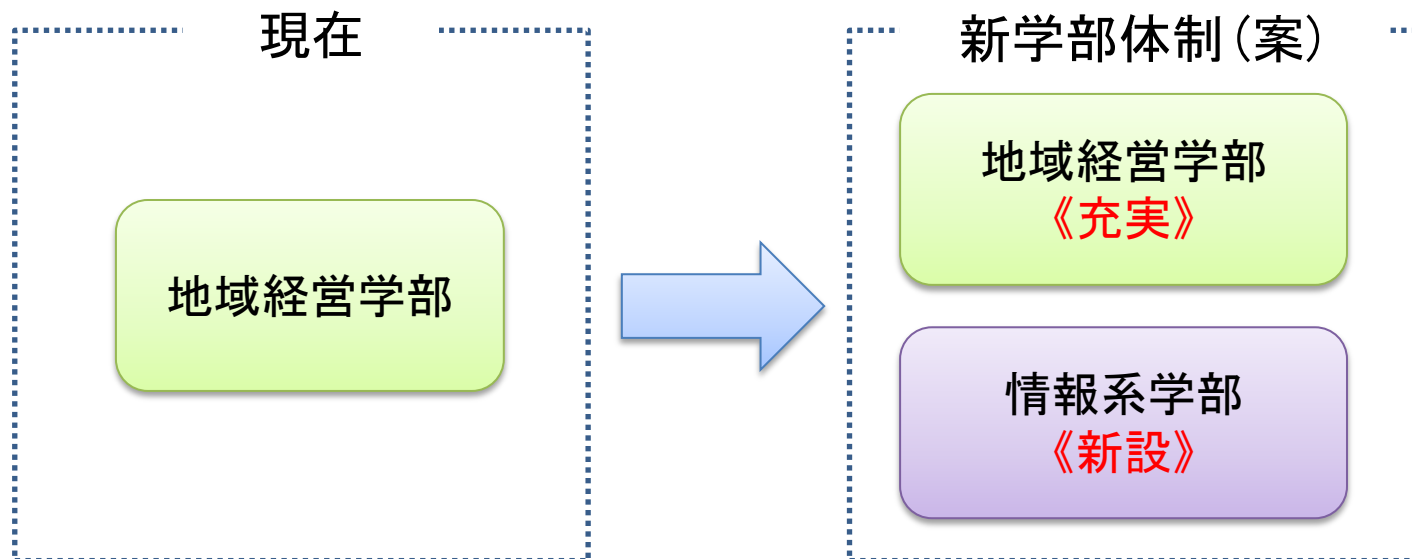
■地域連携・文理連携

- 地元高校生の進路の選択肢を拡大するために、理工系学部の設置が必要。
- 「情報」を学べる学部があれば、長田野工業団地等をはじめとする地元企業の発展に寄与するのではないか（ex. ビッグデータを活用した製造工程の見直し）。
- 京都工芸繊維大学との相乗効果を考えると、理工系学部の方が望ましい。
- 保健福祉系学部は、京都府北部の福祉人材を各自治体で役割分担して養成しているという点やターゲットとする課題を十分に議論できていないという点、また、教員確保が困難な点を考慮すると、もう少し検討が必要ではないか。
- まちづくり活動等、学生も参画した形での連携についてはその活動から「何を学ぶか」を大学と地域両方が検討していくことが必要である。

■キャンパス整備

- 両大学のキャンパス整備にあたっては、財源の問題もあるので、必要性を精査し、優先順位をつけて取り組む必要がある。
- 学生の通学環境において重要となる公共交通のあり方も検討すべき。

◆公立大学法人福知山公立大学の学部体制（案）



既存学部である地域経営学部の充実を図るとともに、新学部として「情報系学部」を設置し、2学部体制とする。

キャンパス整備計画について

理系の国立大学、文系の公立大学が同一キャンパス内に併設していることは、本市の大きな特色であり、福知山公立大学、京都工芸繊維大学が互いの強みを活かし**地域連携・文理連携**を推進することにより、様々な相乗効果を生み出せる可能性が高く、両大学に関する大学政策を推進することは、本市のまちづくりや地域への若者定着、地域協働、産業振興、人材育成、そして北近畿地域全体の活性化にも繋がる。

福知山公立大学・京都工芸繊維大学の**地域連携・文理連携**を推進し、両大学における高度な教育研究活動を支える環境を確保することによる地方創生を牽引する「**知の拠点**」を目指すため、バリアフリー対策、防災対策の視点を踏まえつつ、両大学・産学官連携による「知の拠点」にふさわしい機能的キャンパス整備に取り組む。

1 両大学・地域との「連携」のための施設・設備等

- ・ 地域連携や産学連携のための拠点の共同利用、共同事業の実施
(例：北近畿地域連携センター、まちかどキャンパス、ラーニング・コモンズ※など)

※学生、地域企業・住民等を対象とした、情報通信環境が整い、自習やグループ学習用の家具や設備が用意された産学連携機能を有する開放的な学習空間。

2 両大学の「教育研究」のための施設・設備等

- ・ 校舎、研究室等の配置の方向性
- ・ 共同研究施設のあり方（例：相互利用のコンピュータ室等、情報系連携大学院）

3 両大学の福利厚生のための施設・設備等

- ・ 食堂、クラブ、サークル施設などの整備、利便性向上
- ・ 体育館、グラウンド等の整備・充実

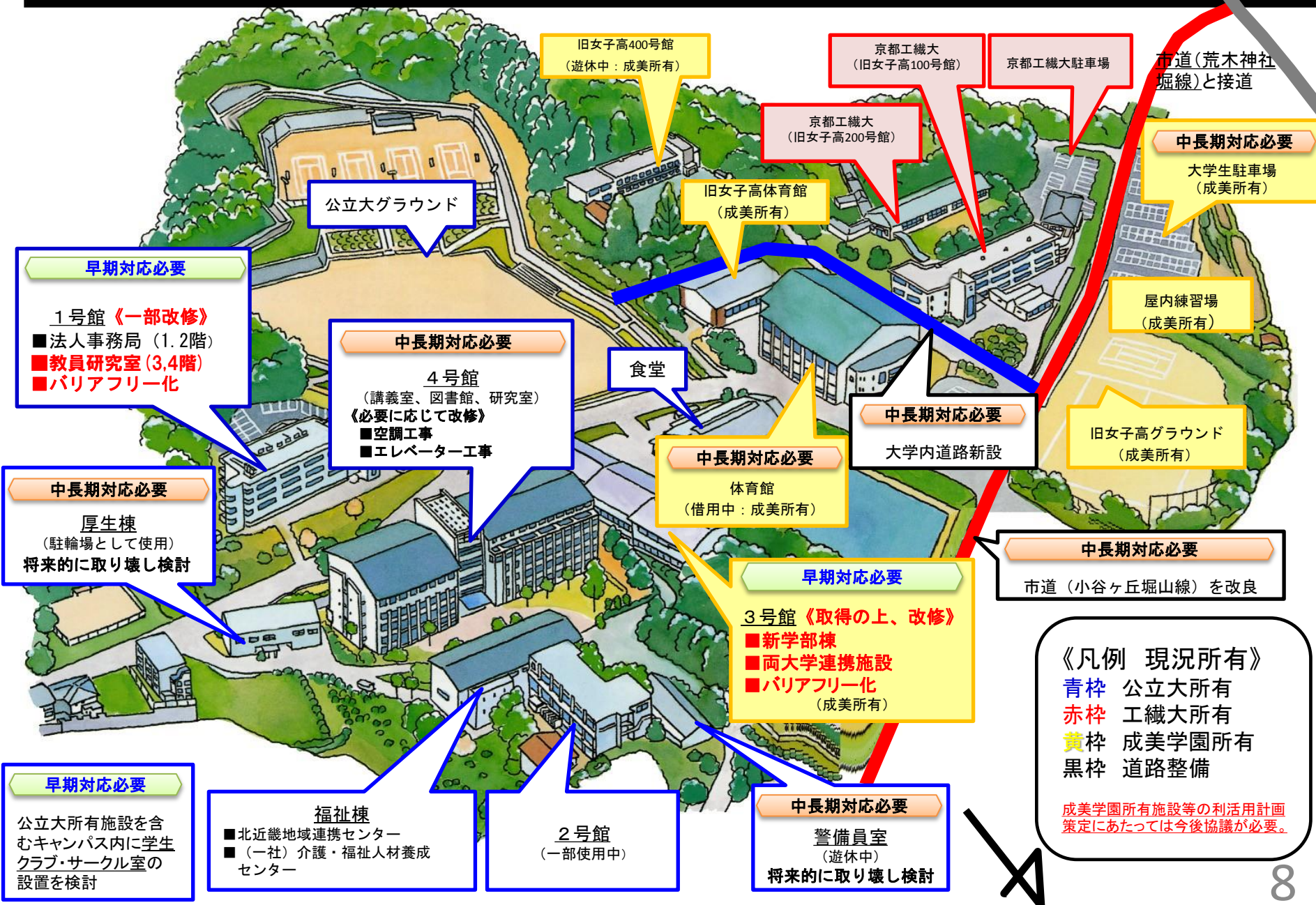
4 両大学の居住環境改善のための学生等宿舎

- ・ 市保有地等を活用した学生向け住宅確保
(PFI等民間活力を活かした取り組み)
- ・ 地元不動産事業者との連携

5 産学、地域連携活動の充実に必要となる両大学キャンパスへのアクセス整備等

- ・ 周辺市道の改良（小谷ヶ丘堀山線ほか）
- ・ 通学に関わる公共交通アクセス環境の利便性向上（路線バス、鉄道等）
- ・ 駐車場の確保

キャンパス整備計画（案）



1 両大学・地域との「連携」のための施設・設備等

(課題)

- 両大学が文理連携を推進するにあたっての拠点となる共同利用施設がない。
- 公立大の地域連携・産学官連携のための拠点として「北近畿地域連携センター (kita-re)」を開設しているが、現時点では人員等の課題から北近畿地域の様々なニーズに対応しきれていない。

(対応案)

◆ 地域連携・産学官連携のための拠点

- 北近畿地域連携センター (kita-re)
- まちかどキャンパス

「北近畿地域連携センター」、「まちかどキャンパス」を両大学にとっての「地域連携・産学官連携拠点」として明確に位置づけ、「北近畿地域連携会議」の機能を十分に活かしながら、北近畿地域の企業、教育機関、自治体、各種団体等との連携を推進し、北近畿地域にとってのシンクタンクの役割、そして生涯学習拠点としての役割を担えるよう取り組む。

◆ 両大学の文理連携拠点

- ラーニング・コモンズ等

3号館を取得、改修し、両大学や産業界・教育界が連携した学習活動を実施できる新しいタイプのラーニング・コモンズのような情報通信環境が整ったスペースを設置するとともに、将来的には両大学連携大学院のような共同研究拠点の設置を検討する。

両大学にとって、地域連携・文理連携を実施するための施設・設備等は、「知の拠点」整備構想の中核の役割を担うものであり、明確に位置づけ、整備する必要がある。

2 両大学の「教育研究」のための施設・設備等

(課 題)

【公立大】

- 老朽化が進んでおり、必要最小限の機能しか備えていない。
- キャンパス内に公立大学以外の施設（例：3号館）があることで、校地の一体利用が図れない。
- バリアフリー・ユニバーサルデザインを考慮した施設計画が図られていない。
- 新学部を設置する場合、4号館だけでは講義室、演習室、教員研究室が不足する見込みである。

【工繊大】

- 情報系連携大学院を検討すべき。

(対応案)

- 1号館を一部改修し、公立大新学部の教員研究室を設置するとともに、エレベーターを設置し、バリアフリー化を図る。
- 3号館を取得・改修のうえ、公立大学新学部棟として活用し、校地の一体利用を図る。
(将来的には工繊大との文理連携の拠点施設である連携大学院施設とすることも検討)

両大学の教育研究環境の整備は「知の拠点化」を図る上で重要な課題である。
特に公立大の新学部開設にあたって必要となる施設、そして、両大学の文理連携の拠点施設は、「知の拠点」整備構想の中核を担う施設であるため、早期の対応が求められる。

■福知山公立大学所有施設

※早期 中長期

名称	階数	耐震	現況利用状況	利活用計画	改修等時期※
1号館	4階建	○	【1階】法人事務局 【2階】学長室、副学長室、CUANKA、中教室 【3階】中教室(4室)《遊休中》 【4階】中教室(3室)《遊休中》	【1階】法人事務局 【2階】学長室、副学長室、CUANKA、中教室 <u>【3階】教員研究室(14室)、会議室</u> <u>【4階】教員研究室(18室)</u> <u>バリアフリー化(エレベーター設置等)</u> <u>空調改修</u>	【早期対応必要】 ■3、4階改修等 ■エレベーター設置等 【中長期対応必要】 ■空調工事
2号館	3階建	×	【1階】学友会室(1室) 【2階】教室等《遊休中》 【3階】教室等《遊休中》	現行どおり。	
4号館	5階建	○	【1階】講義室、図書館 【2階】PC教室、ネットワーク管理室 【3階】セミナー室 【4階】教員研究室(14室) 【5階】教員研究室(16室)	現行どおり (エレベーター改修、空調改修)	【中長期対応必要】 ■エレベーター改修工事 ■空調工事
福祉棟	2階建	○	【地階】調理実習室《遊休中》 【1階】北近畿地域連携センター 【2階】介護・福祉人材養成センター	現行どおり。ただし、今後の介護・福祉人材養成センターの利活用については検討・調整必要。	
厚生棟	2階建	×	駐輪場	将来的に取り壊しを検討	【中長期対応必要】
食堂	平屋建	○	食堂	現行どおり	
警備員室	平屋建	×	物置	将来的に取り壊しを検討	【中長期対応必要】

■学校法人成美学園 所有施設

名称	階数	耐震	現況利用状況	利活用計画	改修等時期※
3号館	2階建	○	【1階】調理室等 【2階】大教室等	<u>新学部棟・両大学連携施設</u> <u>【1階】講義・演習室、ラーニング・commons</u> <u>【2階】情報処理室等</u> <u>バリアフリー化(エレベーター設置等)</u> <u>空調改修</u>	【早期対応必要】 ■1、2階改修等 【中長期対応必要】 ■エレベーター設置等 ■空調工事

3 両大学の福利厚生のための施設・設備等

◆ 食堂等の充実

(課 題)

- 大学周辺にコンビニ、飲食店がほとんどなく、また、学生数の増加に伴い食堂が混み合うため、学生にとって十分な食事環境が整っていない。
- 食堂の設備が十分とは言えず、食堂営業を受託可能な業者が限定される。

(対応案)

- 両大学の学生・教職員だけでなく、将来的には地域住民も活用する地域に開かれた大学食堂として、さらなるサービスの充実が求められる。
- 将来的にはコンビニ等の誘致についても検討必要。

◆ 体育館、グラウンド等の整備・充実

(課 題)

- 公立大には体育館がないため、授業等の際は成美学園体育館を借用しなければならない。
- クラブ、サークル活動においては、場合によっては遠方の体育館（市民体育館等）まで行かなければならない。
- 公立大グラウンドは、公立大学生の利用が主だが、学校法人成美学園との協定により福知山成美高校も利用できる状況にある。

(対応案)

- 当面は学校法人成美学園体育館を借用するが、中長期的には体育館取得も検討必要。
- 学校法人成美学園との協定のあり方についても再検討し、中長期的には公立大グラウンドを公立大・工繊大共用グラウンドとしての活用を目指していく。

◆ 学生クラブ・サークル室

(課 題)

○現在、公立大には20余りの学生クラブ・サークルがあるが、クラブ・サークル室がなく、学生のクラブ・サークル活動に支障を来たしている。

(対応案)

○早期に公立大所有施設を含むキャンパス内にクラブ・サークル室の設置を検討。

学生の憩いの場である食堂、そして、大学生活を送るうえで大きな要素になるであろうクラブ・サークル活動を行える環境を学生に提供できていない現在の状況は、在学生在が輝かしい大学生活を送るにあたっての最低限のニーズを満たしていると言えない。現在の状況が続けば、公立大に対する満足度の低下を引き起こすとともに、さらには今後の学生募集活動にも大きな影響を与えかねない。

4 両大学の居住環境改善のための学生等宿舎

(課 題)

- 学生数の増加に伴い、近隣民間住宅の空き部屋がなくなりつつある。
- 本市の民間住宅の賃料水準が高く、学生にとって経済的負担が大きい。
- 専用の学生等宿舎がない。
- 平成30年秋から京都工芸繊維大学福知山キャンパスに移籍する学生の住居環境について検討必要。

(対応案)

- PFI等民間活力を活用し、市保有地を活用した学生等宿舎を設置を検討するとともに、学生の経済負担を少しでも軽減できるような家賃設定を検討。
- 地元不動産事業者と連携し、学生住宅確保を図る。
- 市内空き住宅等を活用したシェアハウスや次世代下宿「京都ソリデール」事業等の検討。

学生等宿舎があることは、大学にとって大きな魅力となる。
学生にとっては、進路選択の要素の1つになり、また、優秀な教職員を招くにあたっては、都市部の大学に比べて地理的条件において不利であるため、宿舎の有無は大きな要素となる。

5 産学、地域連携活動の充実に必要となる両大学キャンパスへのアクセス整備等

(課 題)

- キャンパス周辺道路が狭隘であるため、バスの乗り入れができず、また、バスの便数が少ない。
- 福知山公立大学が所有する駐車場がほとんどなく、学生駐車場は学校法人成美学園が所有する駐車場を協定により借用している状況にある。
- 福知山中心市街地（福知山駅）からキャンパスへのメインアクセス道路がない。

(対応案)

- 周辺市道（小谷ヶ丘堀山線）の改良による大学へのアクセス改善。
- 大学内道路の新設（工織大横）による両大学間移動の円滑化。
- キャンパス周辺地を含めた教職員・学生、来訪者用駐車場の確保。
- 通学に関わる公共交通アクセス環境の利便性向上（路線バス、鉄道等）を検討。

（例：路線バスの学内乗り入れや便数増加等）

地域に開かれた「知の拠点」を目指すためには、両大学へのアクセス環境の整備は重要な課題である。

また、今後の教職員・学生数の増加や地域連携事業の展開に伴う来訪者等の増加に伴い、駐車場の確保は必須事項である。

資料編

第4次産業革命に向けた「人材力」の強化

- ✓ 第4次産業革命時代の経済成長の源泉となる「人材力」を抜本的に強化するため、人生100年時代における社会人の学び直しを含め、大学や専修学校における教育・人材育成を拡充。

産業構造の変化

IT人材の不足は、現状約17万人から

2020年には 約37万人不足

2030年には 約79万人不足

IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果(平成28年6月経済産業省)

学校と産業界との連携強化等による人材育成の抜本強化

○大学等における未来の産業構造・社会変革に対応した人材育成の推進

- 革新的な**工学教育改革**の推進
 - 6年一貫制教育による工学・情報大学院の創設
 - 学科縦割り構造の抜本的見直し
 - 主たる専門に加え副専門分野の修得
(メジャー・マイナー制：バイオ、医学、社会学、心理学、経営学等)
 - 工学基礎教育の強化
(数学・物理・化学・情報・数理・データサイエンス)
- 高等専門学校**における新産業を牽引する人材育成
- 産学ネットワーク形成による**課題解決型学習等**を通じた**高度情報技術人材の育成**(enPiT)
- 拠点形成による情報セキュリティ教育**の強化
- 全学的な**数理・データサイエンス教育体制整備**

○産学の連携による実践的な教育の推進

- 新たな高等教育機関(専門職大学)の制度化**
産業界との連携で、実践的な職業教育を加速(学校教育法改正)
- 専修学校と産業界等との持続的な連携**
産業構造の急速な変化に対応する教育カリキュラム等を開発
- データサイエンスのスキル修得の支援**
博士課程学生・博士号取得者等を対象としたスキルの習得の支援

○初等中等教育におけるプログラミング教育等を含む情報活用能力の育成

- 「**未来の学びコンソーシアム**」と連携し、現場のニーズに応じた**デジタル教材の開発促進**や**人材支援**等を充実

人材力の強化により、経済成長の実現を

＜今後の成長分野＞

「未来投資戦略2017」（内閣官房日本経済再生総合事務局公表。下記資料参照）によると、第4次産業革命（IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット）の先端技術をあらゆる産業や社会生活で導入することが今求められることとして記述。

アベノミクス成長戦略は、今どこにいて、何が求められているのか？

今後の課題

しかし、民間の動きはいまだ力強さを欠く(設備投資、消費性向)

◆先進国共通の課題

「長期停滞」(Secular Stagnation)

需要面：新たな需要創出の欠如

供給面：生産性の長期伸び悩み

今、求められるもの (成長戦略第二ステージの課題)

第4次産業革命（IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット）の先端技術をあらゆる産業や社会生活で導入

Society 5.0 の実現

狩猟社会 → 農耕社会 → 工業社会 → 情報社会 → Society 5.0

- ・革新的技術を活かして一人一人のニーズに合わせたサービス提供による社会課題の解決
- ・成長のフロンティア（新たな需要の創出と生産性革命）

<昨今の政策提言等>

■大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）」（平成29年6月27日）

『近年の情報通信技術関連の急速な進展が産業や社会の急速な構造変革をもたらし、第4次産業革命1や超スマート社会(Society5.0)2がうたわれる中で、戦略的に強化すべき基盤技術として、AI（人工知能）、IoT(Internet of Things)、ビッグデータ解析技術、システム構築技術、サイバーセキュリティ技術などが挙げられる。』

『第4次産業革命や超スマート社会(Society 5.0)、あるいはその先の時代において要請される人材育成のための工学系教育の革新を行い、新たな産業を支える基盤技術の創出を行うことができる人材を育成することが、喫緊の課題といえる。』

■日本経済団体連合会「グローバル人材の育成・活用に向けて求められる取り組みに関するアンケート結果」（平成27年3月17日）

『グローバル経営を進める上での課題については、「本社におけるグローバル人材育成が海外事業展開のスピードに追いついていない」との回答が最も多く(194社、63%)、次いで、「経営幹部層におけるグローバルに活躍できる人材不足」「海外拠点の幹部層の確保・定着」などが多く挙げられ、グローバルに活躍できる人材不足が大きな経営課題として認識されていることがわかった。』

両大学が所有する施設

参考

施設	構造等	延床面積(m ²)	建築年月日
福知山公立大学1号館	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	2,362.65	昭和57年8月24日
福知山公立大学2号館	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	1,109.24	昭和42年8月10日
福知山公立大学4号館	鉄筋コンクリート造コンクリート屋根地下1階付2階建	6,471.70	平成12年1月31日
福知山公立大学厚生棟	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建	480.00	昭和52年1月10日
福知山公立大学警備員室	木造瓦葺平家建	162.06	年月日不詳
福知山公立大学福祉棟	鉄筋コンクリート造コンクリート屋根地下1階付2階建	1,123.47	平成8年12月26日
福知山公立大学食堂	鉄骨造瓦葺平家建	634.99	平成5年11月15日
福知山公立大学グラウンド			

施設	構造等	延床面積(m ²)	建築年月日
京都工芸繊維大学校舎	改修工事中		

施設	構造等	延床面積(㎡)	建築年月日	所有者
3号館	鉄骨造亜鉛 メッキ鋼板葺2 階建	1,756.08	平成3年1月14日	学校法人成美学園
成美学園体育館	鉄骨鉄筋コン クリート造鋼板 葺3階建	2,704.22	平成4年4月10日 (平成13年8月30 日増築)	学校法人成美学園
旧女子高体育館	鋼管造スレー ト葺平家建	567	昭和39年5月25日	学校法人成美学園
旧女子高400号館	鉄筋コンクリー ト造陸屋根3階 建	1,000.80	昭和34年9月21日	学校法人成美学園
旧女子高グラウンド				学校法人成美学園